

マイナで証明書再停止

富士通点検へまた別の住民票発行

富士通は6月29日夜、マイナンバーカードを使った証明書交付サービスについて、システムを再停止して点検し直すと発表した。別の住民票が交付されるなどのトラブルを受けた点検を17日に完了させたばかりだが、再び誤発行が見つかった。全国123自治体で再びサービスが使えなくなり、再開の時期は未定という。▼1面参照
新たな誤発行は28日、

福岡県宗像市で起きた。女性が市役所の窓口で住所変更の手続きをした後、専用の機械で住民票の写しを申請したところ、他人のものが発行された。同社によると、サンバー上での情報更新が間に合わず、データの不整合が全く別人の住民票を出すエラーを引き起こしたものという。

2019年にも同様の誤発行があり、同社もシステムの不具合を把握し

ていた。プログラムを修正する」として対応したが、一部の自治体で修正ができるしなかつた可能性がある。5月から6月17日に実施した一斉点検では、点検項目からもれていった。再点検では、過去の事例もさかのぼりて調査し、修正できているか確認するところ。

また、この日、マイナンバーをめぐるトラブルが相次いでいることを受け設置された政府の

「マイナンバー情報総括検本部」の担当者を集め、会合の冒頭、河野太郎

デジタル相は「実態をしつかり把握をしていただきたい。その上でマイナンバー制度の信頼確保に

向けて政府全体での総点検をおこなっていきた
い」とあいさつした。